

第5回 テーマ 西宮市大谷記念美術館へ行こう

【事前学習】

日時： 2024年9月17日
場所： 高槻センター街ビル3F
講師： 西宮市大谷記念美術館
学芸員 作花 麻帆 先生



内容：

1. 西宮市大谷記念美術館について

大谷竹次郎氏所蔵の美術品、建物、土地が西宮市に寄贈されて、1972年に開館した。周りに日本庭園があり、庭園のある美術館として近隣住民に親しまれている。

日本近代洋画、近代日本画、フランス近代絵画、阪神間に関わりの深い作家の作品など現在約1300点以上の作品が収蔵されている。

展覧会の他にそれに関連したイベントやミュージアムコンサートの開催、教育普及活動も行われている。

2. イタリア・ボローニャ国際絵本原画展について

ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェアで行われているイラストレーションコンクールの入選作品を展示。

1964年にボローニャ・チルドレンズ・ブックフェアが始まり、1976年から公募による絵本原画コンクールが始まる。その後世界を巡回するようになり、大谷記念美術館では1978年からボローニャ展を開催（今年で43回目）

○ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェアとは

世界で唯一の子どものための本の国際見本市であり、毎年開催されている。出版社の商談、展示、イベントなどがあり、楽しい催しである。イラストレーター、作家、出版社など国際的なゲストも招待され、期間中、世界各国から大勢の人が来場する。

○イラストレーションコンクールについて

応募規定はあるがキャリアに関係なく誰でも応募できる。

テーマや画材は自由で、今年は81カ国3520組の応募があった。

そのうち32カ国78作品が入選。（日本人は4名）

他にも、SM出版賞（35歳以下の若手作家対象）、ラガッツイ賞（優れた絵本に与えられる賞）などもある。

3. 展示作品の紹介

- 「ウマミの冒険」 ジェイコブ・グラント (アメリカ)
- 「ビビトとキキ」 トマーシュ・ジーゼック (チェコ)
- 「いっしょに描こうよ」 エリーナ・ブラスリニャ (ラトビア)
- 「小麦畑にうつる影」 パルヴィーン・ヘイダリーザーデ (イラン)
- 「おとどけもの」 西岡秀樹 (日本) etc.

*絵本になっている作品もあって館内に展示しているので、手に取って感じてほしい

4. 最後に

〈絵本原画を観る時 心がけるとよいこと〉

- ①何が描かれているのか
- ②どんな場面なのか想像してみる
- ③何を使って描かれているのか (技法)
- ④作品の背景にあるものを考える

*絵本にはいろいろな国が描かれている。それぞれの作家独自の視点で描かれているので、絵本の原画を通して作家が伝えたいこと、テーマなどを考えてほしい。

★ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェアの様子や展示作品の一部を紹介していただき、実際に観るのがとても楽しみになりました。

作花先生のお話して下さったことを心にとめ、作家のメッセージが自分なりに感じ取れるように観てこようと思いました。

【鑑賞会】

日時：2024年9月24日
場所：西宮市
大谷記念美術館



美術館に到着するとかわいい絵本の原画をあしらった看板が迎えてくれました。美術館を取り囲むように日本庭園があり、とても静かな佇まいでした。館内には入選作品の他に SM 賞、ラガッツイ賞、企画展の展示もありました。



ジェイコブ・グラント
(アメリカ)
「ウマミの冒険」



アナ・マラシュ
(スロヴェニア)
「雨対策スープ」



矢部雅子
(日本)
「テイクユアマークス」



エンリケ・モヘイラ
(ブラジル)
「青のだんごむし」



スヴェン・フェルカー
(ドイツ)
「もうついた？」



トマーシュ・ジーゼック
(チェコ)
「ビビとキキ」



ナタリア・シャロシュヴィリ
(イギリス)
「クマさん」

★ひと目見ただけでかわいくて惹きつけられた作品、工夫されていてじいっ
と見てしまった作品、それぞれの国の文化や生活が垣間見える作品、作者のメ
ッセージが伝わってくる作品（自分なりの解釈）いろいろでしたが、絵本の原
画展は肩の力を抜いて、楽しく鑑賞することができました。

子どもたちは、きっとまた違う感想を持つのだろうなあと思いながら、絵本は
大人が見ても楽しいということを再認識した一日でした。

★鑑賞会の後は、CAさんが計画してくださって、近くのイタリア料理のお店で
ランチをしました。とても美味しく、食後にカンツォーネやピアノやトランペ
ットの演奏もあり、素敵なひと時を過ごすことができました♪

今回も 岸本さん水田さん本当にありがとうございました。

